

東京 2020 大会普及啓発部会における検討結果
—東京 2020 大会に向けた取組みについて—

平成 30 年 9 月

1 はじめに

前回の東京 1964 オリンピック・パラリンピックから半世紀余りを経て、2020 年、東京で再びオリンピック・パラリンピックが開催される。

東京 1964 大会は、新幹線や首都高速道路などのインフラ整備が進むとともに、人々の心に深く刻まれる大会となった。

一方で、世界的なスポーツイベントがかつてほどは珍しくなくなった現代において、東京 2020 大会が多くの区民の記憶に残り、感動を継承していくためには、本部会の委員をはじめとして関係する各団体が連携して、東京 2020 大会に関する情報を広く発信していく必要がある。

そもそもオリンピックは、ピエール・ド・クーベルタン男爵の提唱により、スポーツを通じた若者の健全な育成を図るものとして 1896 年に始まったものである。各国の選手等が互いに交流することにより国際理解を促し、平和な世界の実現を目指したものであり、これは現在のオリンピック憲章にも受け継がれている。

こうしたオリンピズムの理念を含めて、スポーツの楽しさ、伝統文化の尊さ、異文化交流の面白さ、障害理解の大切さなどといったことを、東京 2020 大会を契機として多くの方に知っていただくことにより、一人一人のより心豊かな暮らしにつながったり、地域の絆や交流の創出につながるのではないかと考えられる。

今後、2020 年に向けて、各関係団体と新宿区がさらに連携を深め、本報告書に示した方向性を踏まえたさまざまな普及啓発の取組みが推進されることを期待する。

東京 2020 大会普及啓発部会
部会長 渡邊 哲意

2 東京 2020 大会に向けた取組みの方向性

東京 2020 大会普及啓発部会では、東京 2020 大会に向けた普及啓発の取組みの方向性について、まず、各団体の取組みの中でどのような啓発活動が行えるかという観点で検討し、併せて、より効果的な啓発を行うため、区のイベントとの連携についても検討した。

さらに、普及啓発事業の推進に当たっては、その効果を高めるため、ターゲットを明確にして取り組む必要があることから、ターゲット別の取組みについても検討を行った。

東京 2020 大会に向けた取組みの方向性として以下の 3 つを提案する。

取組み 1 各団体の主体的な取組みにおける普及啓発の推進

取組み 2 新宿区主催イベントと連携した普及啓発の推進

取組み 3 ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進

取組み1 各団体の主体的な取組みにおける普及啓発の推進

各団体においては、地域向けのイベントの開催や、構成員向けの講習会の実施など、さまざまな自主的な取組みを行っているところである。

こうしたさまざまな活動を東京2020大会と関連付けて実施したり、各団体の取組みの中で東京2020大会のPRを行ったりすることにより、多くの区民への効果的な普及啓発につながる。これら取組みを、各団体が工夫しながら実施し、区民へのきめ細やかな気運醸成を実現していく。

具体的手法のイメージ

①各団体が独自の普及啓発事業を実施する

(取組み例)

- ▶ 新宿区立小学校PTA連合会が実施した絵画コンクール「ボクと私の『夢』コンクール」や、新宿シティハーフマラソンにおける沿道の応援など、各団体の強みやノウハウを活かした普及啓発事業を展開する。



新宿区立小学校PTA連合会による
「ボクと私の『夢』コンクール」▶



②各団体が実施するイベント等において、大会のPRにつながる取組みを実施する

(取組み例)

- ▶ 東京2020参画プログラム(応援プログラム)の認証を取得し、東京2020大会関連事業として実施する。
- ▶ 「東京五輪音頭-2020-」を活用し、大会への気運醸成を図る。

③各団体が発行する広報媒体などのツールを活用したPRを推進する

(取組み例)

- ▶ 各団体の会報紙などに東京2020大会の情報を掲載する。
- ▶ 商店街灯に大会エンブレム等のフラッグを掲出する¹。

新宿区立幼稚園PTA連合会の会報紙
「くよ〜び」(平成30年3月発行)▶



¹ 大会エンブレム等の組織委員会が保有する知的財産を用いたPR活動については、新宿区が実施主体となり、組織委員会の承認を得た場合に限り実施することができる。

取組み2 新宿区主催イベントと連携した普及啓発の推進

各団体による個々の取組みの推進とあわせて、各団体が持つ強みやノウハウを連携させることで相乗効果が生まれ、より効果的な普及啓発が期待できる。

そのためには、新宿区が大会の気運醸成を目的として行うイベント（カウントダウンイベント等の大規模イベントを想定）に、各団体の力を結集させることが望ましい。具体的には、各団体のノウハウを活かしたコンテンツの出展や、各団体のネットワークを活かした集客などを通じて、イベントに参画していく。

こうした取組みを、平成31年3月3日(日)開催予定の大会500日前記念イベントをはじめとしたさまざまなイベントにおいて展開していく。

具体的手法のイメージ

- ①区主催の気運醸成イベントにおいて、各団体がブース出展を行うなど、運営の担い手として参画する



(参考)
東京2020大会777日前記念イベントにおける
ブース出展の様子(新宿養護学校) ▶

- ②各団体が発行する広報紙や、情報連絡のための会議の場など、ネットワークを活用してイベントのPRを行う

- ③イベント開催日における会場の案内や場内整理など、各団体がイベント運営のための支援を行う



(参考)
東京2020大会777日前記念イベントにおける、
運営補助ボランティアの様子(早稲田大学チアリーディング部FALCONS) ▶

取組み3 ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進

取組み1及び取組み2によるさまざまな取組みを進めていくにあたっては、普及啓発の効果が区民に広く行き渡るようにする必要がある。

普及啓発事業の対象としては、未来を担う子どもたちから1964年の東京オリンピックの記憶を今に伝える高齢者まで、非常に幅が広く、また、区内で働く人、学ぶ人、活動する人などの参画についても考慮が必要である。さらに、障害者や外国人も分け隔てなく一緒に参画することができる、という視点も重要である。

普及啓発の取組みを企画するにあたっては、こうした点を踏まえ、ターゲットを明確にして事業を推進することとする。

具体的手法のイメージ

①子どもたちに向けた取組み

- ▶ 次世代を担う子どもたちが、東京2020大会を一生の記憶として持ち続けることができるような取組みを推進する（ボクと私の『夢』コンクール！（再掲）、新宿シティハーフマラソンにおける沿道応援（再掲）など）。

②高齢者に向けた取組み

- ▶ 幅広い世代が参画しやすいように、文化活動に関連したコンテンツを取り入れるなどの工夫を行う。
- ▶ 特に、東京五輪音頭は1964年の前回大会の際に広く親しまれ、そのことを記憶している高齢者も多いことから、東京五輪音頭-2020-を効果的に活用していく。



新宿区主催の「東京五輪音頭-2020-講習会」の様子。▶

③障害者に向けた取組み

- ▶ 東京は、世界で初めて 2 回目の夏季パラリンピックを開催する都市となることを踏まえ、障害者理解に向けた取組みを推進する。
- ▶ 障害の有無に関わらず誰もが参加できるようなコンテンツ（ダイバーシティウォールパズルアートなど）の展開を図る。



ダイバーシティウォール
パズルアートの例▶

④外国人に向けた取組み

- ▶ 外国人の興味・関心を引きやすいコンテンツを工夫して実施していく（イベントにおいて、各国の食文化を体験できるブースを展開するなど）。

資料1 東京2020大会について

(1) 東京2020大会の概要

① 開催日程

オリンピック競技大会	2020年7月24日(金)～8月9日(日)
パラリンピック競技大会	2020年8月25日(火)～9月6日(日)

② 大会ビジョン

「スポーツには世界と未来を変える力がある。」

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

2020年の東京大会は、

「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、

「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、

「そして、未来につなげよう(未来への継承)」

を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、

世界にポジティブな変革をもたらす大会とする。

③ 新宿区内における実施競技

現在建設中の新国立競技場において、以下の競技の実施が予定されている。

オリンピック競技大会	陸上競技(競歩を除く)及びサッカー
パラリンピック競技大会	パラ陸上競技

また、オリンピックマラソン競技のスタート及びフィニッシュ地点も新国立競技場となっており、スタート直後とフィニッシュの手前は新宿区内(外苑西通り、靖国通り、外堀通り)を通るコースとなっている(下図のとおり)。

(図) 東京2020オリンピック マラソン競技コース図(組織委員会HPより)



(2) 東京 2020 大会エンブレム等の利用について

大会エンブレムや大会マスコット、「東京 2020 大会」などの大会呼称等は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という）の管理する知的財産に当たるため、自由に使用することができない。

一般の団体でも利用が可能なツールとしては次のものが挙げられる。

① 東京 2020 参画プログラム（東京 2020 応援プログラム）

東京 2020 参画プログラムは、8つの分野（スポーツ・健康、街づくり、持続可能性、文化、教育、経済・テクノロジー、復興、オールジャパン・世界への発信）において、各主体が実施する様々なアクションに対する認証を通じて、東京 2020 大会への参画を促進する制度である。

利用主体に応じた2つのプログラムから構成されており、開催都市や会場関連自治体、政府、大会スポンサー等を対象とする「公認プログラム」と、開催都市及び会場関連自治体以外の自治体や、その他非営利団体（町会・自治会や商店会、スポーツ団体、公益法人、NPO団体等）を対象とする「応援プログラム」がある。

認証を取得すると、プログラムマーク（右図）の使用や、「オリンピック」「パラリンピック」といった用語の使用が可能になる（応援プログラムの場合、タイトル以外（説明文等）への文言使用に限る。）。



▲応援プログラムマーク

② 東京五輪音頭-2020-

1964年に流行した「東京五輪音頭」を現代風にリメイクした「東京五輪音頭-2020-」は、CD及び振付映像DVDが、町会・自治会等の地域団体に対して貸出に供されている。

また、区では平成30年6月～7月に、東京五輪音頭-2020-講習会を開催した。



▲東京五輪音頭-2020-

③ 東京 2020 大会公式ライセンス商品

大会エンブレムや大会マスコットを用いた独自グッズの制作はできない。公式ライセンス商品を購入し使用することはできる。



▲大会エンブレム



▲大会マスコット

【大会関連ツールの使用の制約】

	開催都市、会場関連自治体、大会スポンサー等	非営利団体（町会・自治会、商店会等）
大会エンブレム 大会マスコット	○	×
大会呼称等	公認プログラムの認証により可	応援プログラムの認証により可

資料2 新宿区における大会気運醸成のための取組み

(1) これまでに実施した気運醸成事業

イベント名など	内容
フラッグツアー 開催：29年6月3日 参加：300名	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックフラッグの贈呈 ・オリンピック（釜本邦茂氏）によるトークショー ・フラッグの展示
パラスポーツフェスタ 開催：29年6月3～4日 参加：340名	<ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ（車椅子バスケットボール・ボッチャ・ブラインドサッカー）の体験教室 ・パラリンピアン（芦田創氏（パラ陸上）、齋藤祐介氏（車椅子バスケット）等）によるトークショー
全校フラッグメモリアルツアー 開催：29年6月5～9日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックフラッグの区立小・中・特別支援学校（全40校）への巡回 ・全校児童・生徒との記念撮影の実施及び写真の配付
映画「東京オリンピック」上映会 開催：29年8月3日 参加：200名	<ul style="list-style-type: none"> ・村岡功氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授・東京2020大会区民協議会座長）の講演 ・映画「東京オリンピック」上映
東京2020大会1000日前記念イベント 開催：29年10月28日 参加：800名	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ体験教室（サッカー、走り方、シンクロ、空手、ボルダリングほか） ・トリックアートフォトコーナー等
デイカウンターの設置 設置：29年10月28日より順次	<ul style="list-style-type: none"> ・区内14所（新宿区本庁舎、新宿コズミックセンター、新宿スポーツセンター、各特別出張所、JR信濃町駅）に設置 ・東京2020大会開催までの日数と、区主催イベントで撮影した区民等の写真を表示
東京2020大会777日前記念イベント 開催：30年6月9日 参加：2,700名	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ体験教室（サッカー、走り方、ボッチャほか） ・オリンピック、パラリンピアン講演会 ・各種ブース出展（新宿養護学校、パートナー企業等） ・小中学生演奏会等
東京五輪音頭講習会 開催：30年6～7月 参加：324名	<ul style="list-style-type: none"> ・区内5所（愛日小、戸塚第二小、四谷小、柏木小、落合第五小）にて実施
町会・自治会・商店会等への大会関連グッズの配布・貸与	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020 うちわの配布 ・東京五輪音頭-2020-CD・振付DVD、東京2020 はっぴの貸与

(2) 今後実施予定の気運醸成事業

平成 30 年度：500 日前イベント（2019 年 3 月 3 日予定）

平成 31 年度：気運醸成イベント（2019 年秋頃）

ラグビーワールドカップパブリックビューイング（2019 年秋頃）

平成 32 年度：気運醸成イベント（2020 年春頃）

聖火リレー関連イベント（2020 年春頃）

東京 2020 大会パブリックビューイング（大会期間中）



▲フラッグツアー



▲東京 2020 大会 1000 日前記念イベント



▲東京 2020 大会 777 日前記念イベント



▲東京五輪音頭-2020-講習会

資料3 東京2020大会普及啓発部会について

(1) 東京2020大会普及啓発部会名簿

部会長	渡邊 哲意	宝塚大学
委員	山田 和男	新宿区町会連合会
委員	武山 昭英	新宿区商店会連合会
委員	馬場 章夫	東京商工会議所新宿支部
委員	島田 治	新宿観光振興協会
委員	安齋 正義	新宿区体育協会
委員	今井 康之	新宿区障害者団体連絡協議会
委員	小川 定弘	新宿区立小学校PTA連合会
委員	太田 正一	産業振興会議委員
委員	的場 美規子	文化芸術振興会議委員
委員	山本 芳裕	スポーツ環境会議委員

(2) 東京2020大会普及啓発部会開催実績

回	開催年月日	議題
第1回	平成30年5月14日(火)	東京2020大会の気運醸成に向けた自主的な取組みの推進について
第2回	平成30年6月21日(木)	〃
第3回	平成30年7月19日(木)	〃